

「こちら、～になります」

ファミレスなどで使われるいわゆる「マニュアル敬語」の中で、評判の悪いもののひとつに、「～になります」がある。「こちら、ご注文のホットコーヒーでございます」ならともかく、「ご注文の、ホットコーヒーになります」は、けしからんというわけである。なかには、客から、「いつなるの？もう既に、これ、ホットコーヒーじゃないの？」と意地悪なことを言われたという話を、ファミレスでアルバイトをしているという学生から実際聞いたことがある。

そもそも、「～になる」ということばには様々な意味があるが、英語の「become」同様、「～に変化する」ということを、語義の中心として捉える人が多い。「オタマジャクシはカエルになる」「水素と酸素が化合して水になる」という使い方である。

ところが、「～になる」の意味は、けっこう幅広い。例えば、親族を紹介する時、「私の義理の妹になります」という表現は、何らかの「変化」を示すものではない。「～にあたる」「～に相当する」という意味合いである。

「ホットコーヒー」や「きつねうどん」など、他に想像を広げる余地がほとんどないのであればともかく、「海賊風パスタ」や「シェフの気まぐれサラダ」など、メニューに掲げられたものと実際に運ばれてきたものとの

間に認識の幅が存在し得る場合は、この「～にあたる」という意味での使い方は、十分有効となる。この店では、今お持ちした料理が、メニューに掲げた「海賊風パスタ」にあたるのだという意味を込めて「～になります」が成立する。

チェーン店の中には、「なります一律禁止令」が出たというところがあると聞く。「～になります」は、すべて、「～でございます」で置きかえるようにというわけである。とりあえず「～でございます」と言っておけば、それが「ホットコーヒー」だろうと、「海賊風パスタ」だろうと、その中身にかかわらず、「～になります」を使うことに対するクレームが、客から来るおそれがない。

一方で、「～になります」は、「丁寧さ」という点で、「～です」と「～でございます」の中間に位置すると考える若い人も増えてきているようだ。さらに、自分が管理責任を持つものを「授与または提示」する場合に「～になります」が使われると主張する学説もある。

「なります一律禁止令」は、効率重視の「マニュアル敬語」の世界では、往々にして起こりがちなことではあるが、ことばの微妙なニュアンスが、そんな形で失われてしまうのは、残念というしかない。

田中伊式(たなか いしき)